かみしほろ学園構想

ダイジェスト版

平成28年3月3日策定

上士幌町教育委員会

『かみしほろ学園構想』って？

上士幌町では、平成 26 年 12 月に、『上士幌町子ども教育ビジョン』を策定し、町として育みたい５つの「目指す子ども像」を定めました。

『かみしほろ学園構想』は、この５つの「目指す子ども像」をどのように具現化していくか、具体的な施策をまとめたものです。

『上士幌町子ども教育ビジョン』の目指す子ども像

1．確かな学力と応用力を身に付け、夢に向かって人生を歩むことができる子
2．郷土の歴史を学び、伝統・文化を大切にし、郷土を誇れる子
3．厳しい環境に負けない、たくましい心と体を持つ子
4．豊かな発想力を持ち、自分の考えを表現できる子
5．お互いの個性を認め尊重し合い、思いやりと感謝の気持ちを大切にできる子

かみしほろ学園構想の基本理念

◆基本理念１：幼児から高校生まで一貫性のある教育づくり

３つの視点をもって、幼児から高校生まで一貫性のある教育づくりを目指します。

◇ 人権教育～「思いやりの心」「奉仕の精神」を育む
◇ 環境教育～「資源の大切さ」を知り、「自然を守る心」の育成
◇ 地域社会の活性化～「地域への関心」の喚起、「地域と連携した取り組み」の推進

◆基本理念２：地域総ぐるみで子どもの育ちに関わる仕組みづくり

コミュニティ・スクール制度を活用し、学校を核として大人と子どもが学び合う仕組みづくりを進めます。

具体的な施策

１．幼児から高校生まで一貫性のある教育づくり

（1）ユネスコスクール指定への取り組み

「人権教育」、「環境教育」、「地域社会の活性化」に関する学びを体系的、系統的に整理するため、認定こども園、小学校、中学校、高等学校の情報を共有し、ユネスコスクールへの登録を目指します。

地球規模の諸問題に若者が対処できるような新しい教育内容や手法の開発、発展を目指して活動する学校のことです。ユネスコスクールでは、私たちとそ子孫たちが、この地球で生きていくことを困難にするような問題について考え、立ち向かい、解決するための学びを推進します。

これを「持続可能な開発のための教育」（英語を略して「ESD」と呼びます）と呼び、将来、持続可能な社会の担い手を育む教育です。

※「ユネスコスクール」ホームページより

ESDの概念図

（2）共通教材の導入と活用

目標に向かって努力できる力、スケジュールを管理できる力、基本的な生活習慣が身に付いていることなどの「自己管理能力」を身に付けるために、認定こども園から高校生まで共通教材「iB ノート」を導入します。

※『iB ノート』とは、本町が独自に開発した教材で、シール帳、メモ帳、手帳を発達段階に応じて活用するものです。

（3）サポートブック『アーチ』の導入と活用

本町で育つ子どもと、子育てをする保護者が、子育てに関係する機関とスムーズな連携と情報共有を図ることで、継続的なサポートを受けやすい環境を作るために「サポートブック」を導入します。

※『サポートブック』は、子どもの成長に応じた継続的な支援をするため、必要な記録を共有できるファイルです。

（4）学習成果の実感化の取り組み

子どもの学習意欲の喚起や、学ぶ意味の確認など、学習した成果を実感できる取り組みは非常に重要なことから、英語検定、漢字検定、算数数学検定などの各種検定を活用するため、受験を奨励斡旋し、一定程度、受験料を町が助成します。

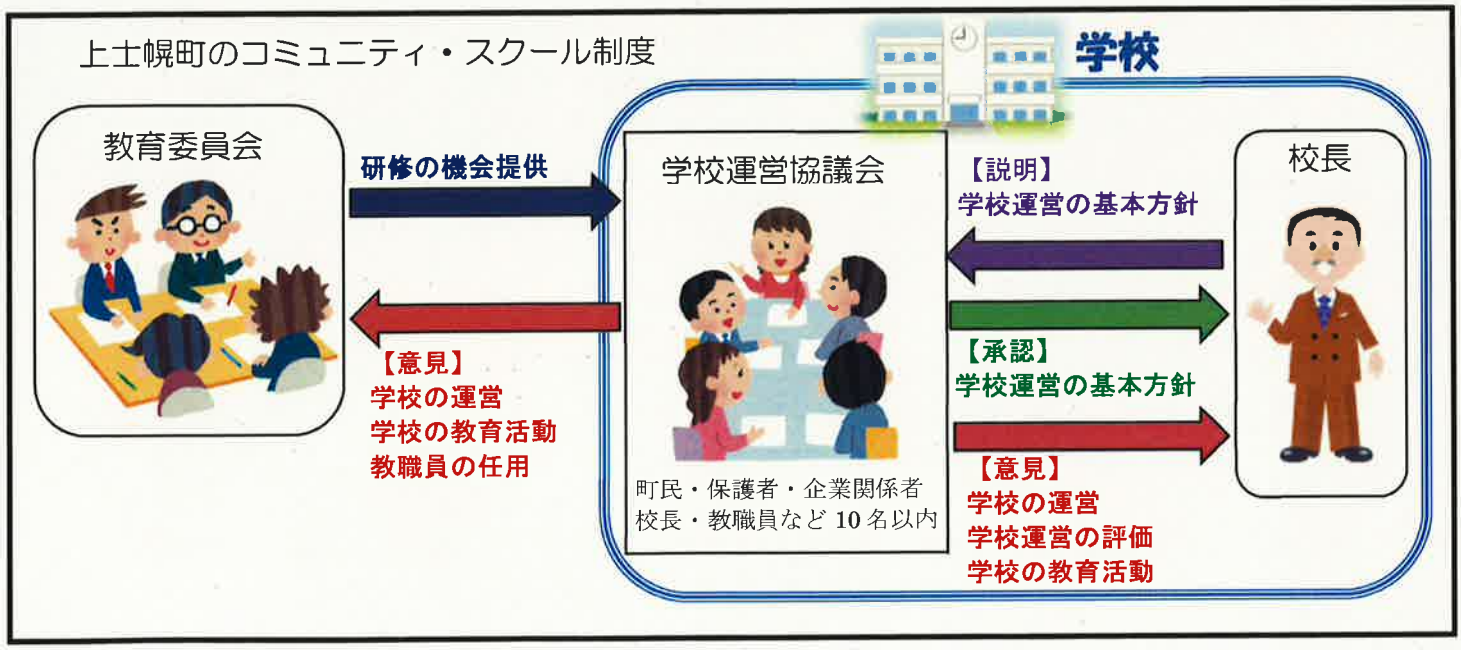
（5）課外活動の充実と連携方策

少年団活動から部活動まで、子どもたちが課外活動を頑張ることができる仕組みを作るために、現実的な連携方策を検討できる組織を立ち上げます。また、少年団活動や部活動への支援内容についても検討を進めます。

2．地域総ぐるみで子どもの育ちに関わる仕組みづくり

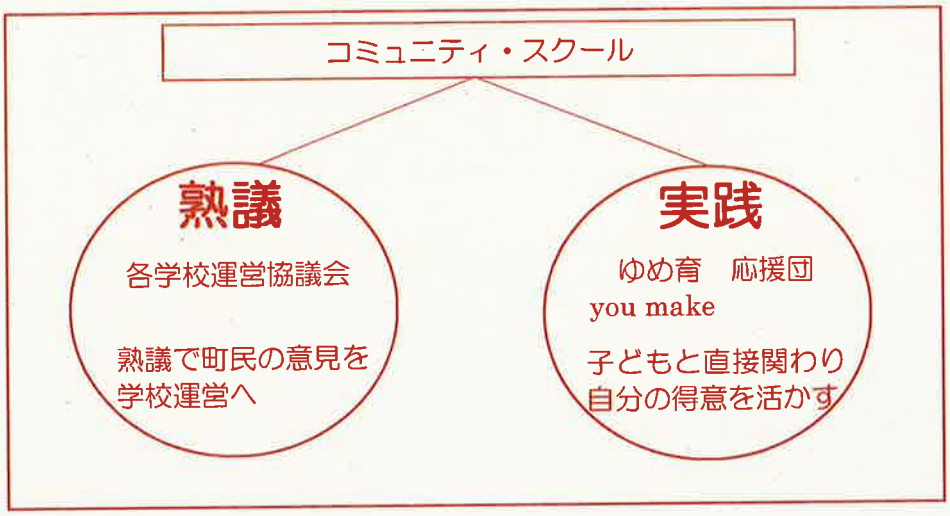
（1）コミュニティ・スクール制度の活用

全ての小学校と中学校に学校運営協議会を設置し、地域総ぐるみで子どもたちの育ちに関わる仕組みづくりを行います。なお、全町的に町内の学校運営へ町民が参画できる体制を整備するため、各学校運営協議会を総括する「上士幌町コミュニティ・スクール委員会」を設置します。



（2）ゆめ育応援団の設立

コミュニティ・スクール制度は、学校と町民の皆さんの熟議によって学校を創っていこうという試みです。これに加えて本町では、学校を核にして、町民の皆さんが実際に子どもと関わり、学び合っていく仕組みを作ります。



（3）社会教育における地域教育の推進

これからの社会教育では、社会教育委員の主体性を発揮しつつ、下記の4点について重点的に取り組みます。

① 本町の豊かな自然環境を活かした体験活動の推進

面積の約 74%が国立公園であるという利点を活かし、学校で行われる自然環境教育との情報共有を密に行いながら、系統的・体系的にその体験内容を整理して推進します。

② 農業教育の推進

農業の恵みを受けて発展している本町の利点を活かし、関係機関と連携してその理解を深める体験活動を推進します。

③ 生活体験の推進

生活習慣や協調性、リーダーシップ、自分のことは自分でできる力などの「生活力」は、家庭や学校だけでは身に付けることが困難ですので、地域全体でその力を身に付けさせる取り組みを進めます。

④ 他市町村との交流体験

子どもが異なる文化に触れ、自らが育っている本町を見つめ直す機会を作るために、他市町村との交流を進められる環境整備を行います。